

概要

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）とは「すべての人が、経済的な困難を被ることなく、十分な質の保健医療サービスを受けられる状態」（世界保健機構 WHO、2010 年）と定義され、特に基本的な保健サービスについては、2030 年までに世界中すべての国が UHC を達成することが、「持続可能な開発目標（SDGs）」のターゲットの一つになっています。

日本の二国間援助機関である国際協力機構（JICA）も UHC 達成に向けた支援に重点を置いており、技術協力や資金協力を通じた支援を行っています。

今回の定例研究会では、2012 年から 2017 年までフィリピン山岳地帯で実施された妊産婦に対する UHC 支援事業を事例に、JICA の UHC に向けた取り組みをご紹介します。

プロジェクトでは、へき地の助産所や保健所を整備することによりサービス提供能力を強化したほか、妊婦の国民健康保険加入を促進することで医療費による経済的リスクからの保護も図りました。その結果、今まで自宅で出産していた山岳地の妊婦が医療施設で分娩できるようになり、妊産婦の死亡を下げることに成功したものです。